

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学校名	静岡県立静岡東高等学校	校長名	大野 達雄
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア 授業改善 と確かな 学力の向 上	教員の授業参観 年3回以上 100%	目標達成率 89.6%となり、 100%達成には至らなかった ものの、概ね高い水準を維持 することができた。	B	授業参観や教科指導セミナー への参加を通して、授業改善 に向けた意識の共有と実践の 広がりが見られた。一方、参 観実施の更なる定着が課題で ある。今後も教員相互の学び を促進し、生徒の主体的な学 びを引き出す授業づくりを推 進していく。	教務 研修 情報 教科
	「授業をとおして新たな見 方・考え方や知識・技能を身 に付けた」と答える生徒の割 合 全科目で80%以上	科目・学年別に実施したアン ケートにおいて、58の全調査 集団で目標を達成した。	A		
	教員の教科指導セミナー 参加者人数 5人以上	主要5教科それぞれ1名が長 期休業中に教科指導セミナー へ参加し、教科指導力向上の 機会を確保した。	A		
	1・2年家庭学習時間： 平日1日平均最低90分、 目標3時間以上	[1年部] テスト1週間前の平均学習時 間は5月3時間34分、7月3 時間50分、10月3時間54分 で達成。 [2年部] テスト1週間前の学習時間は 5月3時間14分、7月3時間 45分、10月3時間41分で達 成。	B	[1年部] テスト期間以外の統計データ は算出していないため、日常 的な学習時間の正確な評価が できないことが課題。 [2年部] 達成している一方で、平日30 分未満の人も一定数おり、二 極化が進んでいる。	進路 学年 教科
	学びの基礎診断（ベネッセ総 合学力テスト等）の結果分析 に基づく授業改善及び個々の 課題克服に向けた学習指導の 実践	「学びの基礎診断テストの分 析による授業改善」をテーマ とした校内研修を実施し、学 年・教科における指導内容や 課題について共通理解を図っ た。	B	話し合いのきっかけづくりと しては有用であったが、具体 的な授業改善に結びつけるた めには引き続き各教科での検 証が必要である。	
	1・2年11月進研模試 偏差値平均55以上	[1年部] 国数英総合56.0で達成。 [2年部] 国数英総合で7月54.6から 11月56.1に上昇し、目標は達 成できた。文理別にみると、 文系は56.1から57.9へ、理 系は53.3から54.7に推移し ている。	A	[1年部] 国53.6、数56.3、英55.5。教 科バランスは再考の余地あ り。 [2年部] 偏差値帯45～55の生徒に成績 上昇が見られた。上位層をさ らに伸ばすことと、下位層の 支援が課題である。	
	大学入学共通テスト平均点 全国平均+5%以上	本校の平均点は全体で599点 (文系625点、理系581点)。 文理別の予想平均点との比較 では、全国平均点+5%の目	C	理系の総合平均点が、59期と 61期で、全国平均点の-20点 前後になっている。61期の数 学ⅡBCと理科専門科目すべて	

様式第3号

		標に対して、文系が-0.8点、理系が-52.2点だった。		が、全国の予想平均点を下回っている。	
	学習支援プラットフォーム（Cラーニング、ロイロノート等）の学習指導への活用	学習指導におけるロイロノートの利活用は進んでいるが、Cラーニングは東陵セミナーの教材倉庫の利用や教材の配信程度に留まっている。	B	学習支援プラットフォームを継続して活用し、学習効果を高める方法を共有していくことが課題である。	
	CEFR B1 レベル 60人以上 A2 レベル 500人以上	CEFR B1 レベルが92人、A2 レベルが693人であった。	A	さらにB1レベルの生徒が増えるよう指導する。	
	新教育課程・共通テストに対応する学習指導	「学びの基礎診断」として導入した総合学力テストについて、その結果をどのように振り返り、日常の学習指導に生かすかをテーマに研修会を実施した。	B	日常の授業と評価を通して育成した力を、共通テストにおいて発揮できるよう指導の一体化を図るため、今後も研修会の実施や各教科における協議を重ねていきたい。	教務 進路 学年 教科
	3年間を見通した進路指導計画の検証と改善	職員会議で、各学年の各月の進路関連行事について連絡して、まずは各学年ごと、および3年間全体の流れを示せた。	B	「滞標」にも、進路指導課の進路指導方針を示してあるが、どのくらいの担任がそれを意識して、生徒に対する進路指導に取り組んでいるかは不確かである。	
	「社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒」 80%以上	アンケートで「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒の割合は81.2%であった。	A	「主体的に関わろうと思う」生徒が多いことは良いことだと思うが、そのことと探究活動との関連については更なる調査と検討が必要である。	探究 学年 教科
	授業への取組状況・姿勢について、「自ら進んで取り組んでいる生徒」 70%以上	アンケートで「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒の割合は88.1%であった。	A	引き続き、学習意欲の向上につながる指導・助言が必要である。	教科
	授業や探究学習での ICT 活用の推進	授業や探究学習で ICT を活用できている。	A	各教科で授業における端末活用の実践を積み重ねていきたい。	教務 情報 探究 教科
	協働的な学びをすすめるための個別最適な学びにおける ICT 活用の推進	Google フォームやCラーニングを活用し、アンケートを行い、そのデータを探究に活用する生徒が多く見られた。情報収集やグループワークも ICT を活用する場面が多かった。	A	アンケートの内容やデータ分析についての指導を考えたい。探究活動における AI や SNS の活用についても検討していきたい。	
意志の育成と進路目標への挑戦	大学模擬授業生徒満足度 90%以上	16講座のうち5講座が「興味深かった」の回答率が90%以上だった。講座ごとのバラツキが大きく、全体としては82%にとどまった。	B	アンケートの要望として、県外の大学の希望や、文系学部（経営、国際）の希望が出されている。予算など希望通りにはいかないが、次年度の候補として考えていきたい。	進路 学年
	大学訪問 生徒各自の目標達成率 100%（オンライン説明会参加も含む）	[1年部] 夏課題でオープンキャンパスに全員参加し、9月にプレゼンを行った。冬課題で夢ナビ	A	[1年部] オープンキャンパスの大学選定の理由が明確でないため、キャリア教育・進路指導を充	

様式第3号

		<p>動画2本以上視聴。 [2年部] 夏課題としてオープンキャンパスへの参加を課し、進路達成プログラムのキャンパス・ワーク・レポートの提出を課した。また、昨年につき、夢ナビ動画の視聴とレポートの提出も課した。</p>		<p>実させ、各自の目的に合致した大学へのオープンキャンパス参加を促したい。 [2年部] オープンキャンパスの予約の出遅れ、希望学部でなかったり、第1志望大学に参加できない生徒がいた。また、オープンキャンパスへの参加を事後の取り組みにつなげる指導が課題となっている。</p>
大学入学共通テスト5教科型受験率 80%以上		<p>全教科受験率は 81% (文系 70%、理系 91%) であり、わずかだが上回った。</p>	A	<p>目標達成のためには文系生徒の国立大学志望を増やすしかない。地元静岡大学の志望者を増やすために、静岡大学の魅力の宣伝が必要である。</p>
ハイレベル模試受験者数 学年各 30 人以上		<p>1年は 34 人、2年 57 人 (文系 33 人、理系 24 人) で目標達成である。</p>	A	<p>[2年部] 志高く難関大学を目指すこと、模試を2次試験対策の勉強につなげることを指導し続ける。</p>
県内国公立大学合格者数 60 人以上		<p>現役の県内国公立大学の合格者数は、静岡 21、浜松医科 1、静岡県立 29、静岡文化芸術 1、静岡県立農林環境専門職 1 の合計 53 であった。浪人の合格者数は、静岡 2、静岡文化芸術 1 の合計 3 名だった。現浪合わせて、56 だった。</p>	C	<p>現役合格数について、前年度合格 63 から -10 の結果だった。各大学の合格数の変動は、静岡 42→21 (-21)、浜松医科 1→1 (±0)、静岡県立 19→29 (+10)、静岡文化芸術 1→1 (±0)、静岡県立農林環境専門職 0→1 (+1) である。</p>
国公立大学現役合格者数 卒業生の 50%以上		<p>国公立大学合格者数延べ 129 で、卒業生 (273 名) の 47.3% で、50%を下回った。</p>	C	<p>前期で挑戦校に出願する生徒が多く、合格者数が 70 と少なかったことの影響が大きい (前年前期合格数 90)。しかし、中後期の合格数は 34 で、ここ数年で一番多い (前年中後期合格数 24)。</p>
難関国公立大学 (※1) 合格者数 10 人以上		<p>東北 1、名古屋 3 (1)、大阪 1、東京科学 1 (1)、神戸 1 の現役 7、浪人 2 の合計 9 だった。</p>	B	<p>現役 7 は、昨年度と同数である。</p>
難関私立大学 (※2) 合格者数 90 人以上		<p>現役の合格延べ数は 63、浪人の合格延べ数は 21、合計 84 であった。現役の合格延べ数は、早慶上理が 7、GMARCH が 30、関関同立が 26 であった。</p>	C	<p>現役の GMARCH の受験延べ数は 153、そのうち合格が 30 で、合格率は 19.6% でした。法政の一般受験延べ数が最多で 67、そのうち合格が 9、合格率は 13% でした。GMARCH を全落ちする生徒もいて、「数打てば当たる」という合格は見込</p>

様式第3号

				めないのが現実である。	
	静岡大学・静岡県立大学・常葉大学との連携の有効活用	東陵セミナー1年の活動に静岡大学、2年に静岡県立大学の教員、学生がアドバイザーとして参加。	A	これまで行ってきた静岡県立大学との連携が持続できていることに加え、静岡大学教育学部との連携を推進することができた。	教務探究 ※3
	静岡大学理系実験講座 参加者数20人以上 満足度90%以上	静岡大学理系実験講座の参加者は25人、満足度は91.3%であった。	A	理科に対する興味を喚起することができた。	
	「専門教養講座」の単位取得者 5人以上	静岡大学4人、静岡県立大学13人、常葉大学1人の計18人が参加した。	A	積極的に学習の機会を求める生徒が大幅に増えた。次年度以降も積極的に広報していきたい。	
	SDGs Terakoya 参加者数20人以上 満足度90%以上	静岡県立大学との連携事業「SDGs Terakoya」を12月20日に実施し、20名の生徒が活動に参加した。参加した生徒の満足度は90%。	A	参加生徒の満足度は高く、感想の内容も良かった。そのことを次年度実施する場合は広報し、生徒募集を進めたい。	
	生徒個人面談回数 年間5回以上	1・2年生は年間4回、3年生は年間5回の面接週間を設けた。さらに個別面談を実施している担任も多い。	B	行事予定として面接週間は4～5回設定しているが、成果目標は年間5回以上のままでよいか。過去には6月にも短縮日課による面接週間を設定していた経緯があるため。	教務
	多様化する入試制度についての研究	予備校主催の教科別研修に参加したり、大学入学共通テストの教科ごとの分析に取り組んだりしている。	B	研修への参加費用や旅費の工面が困難である。	進路
	修学旅行 生徒満足度90%以上	事後アンケートではいずれの研修も9割以上が「満足した」と回答した。コメントも肯定的な意見が多かった。	A	今年度の取り組みを参考に企画する。	2年探究
	SDGs等に関する外部コンテスト・プレゼンテーション大会に参加する生徒30人以上	様々な外部コンテストに2年生48名、1年生32名の生徒が参加した。	A	コンテストで1次選考を通過するチームが昨年より増えた。コンテスト以外にも、様々な外部での活動に参加する生徒が多く見られた。	
ウ 自主自律の精神と豊かな人間性の育成	遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	1月末現在、1日平均全校で6.8人であった。学年別では、1年0.85人、2年1.4人、3年4.6人。3年生は特定の生徒による遅刻が目立った。	B	今年度は特に2年部において、遅刻を減らす地道な呼びかけが功を奏している。次年度は全校での呼びかけを期待したい。	教務 学年
	特別活動の活性化と生徒主体の運営力の育成	学校祭や行事等で新しい企画や質を高める取り組みを自ら構想できることが増えた。	A	低学年が生徒会や学校祭実行委員の活動に積極的になってきた。	生徒
	東陵祭 生徒満足度80%以上	「意欲的に取り組めた・活動した」生徒94.2%	A	「満足度」という評価規準は受身的・消費者マインドな気がするので「主体的に取り組めた(役割があり、果たせた)」	

様式第3号

				などの指標もあるとありがたい。	
	「自ら挨拶をしている」と答える生徒 90%以上	アンケートで「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒の割合は88.8%であった。	B	昨年度(91.0%)より微減。引き続き挨拶の大切さを指導する。	
	各部活動の目標達成率 80%以上	上位大会出場といった目標に対しては達成が叶わなかった。	B	結果を重視した目標や成果指標を見直し、生徒の取組状況や満足度等を問うようにしたい。	
	部活動活動時間と下校時刻の順守	概ね達成できた。	B	切り替え意識の向上、活動終了から帰宅までの時間短縮、帰宅時刻の早期化。	
	情報モラル講座の実施、関連の生徒指導0件	6月に「情報モラル講座」を実施した。関連の生徒指導は0件だった。	A	もはや情報モラルが絡まない生徒指導案件は存在しないので、成果目標を再考すべき。情報端末の使用ルール・マナーについては日常的に指導を積み重ねているのが現状である。	学年生徒 ※4
	文化教室 生徒満足度 80%以上	音楽(パーカッション)の鑑賞を実施。生徒アンケートの「大変良かった」「良かった」を合わせた割合は97%であった。	A	次年度は演劇(オペラ)の予定。芸術鑑賞と同時にハンセン病教育も内容に入れている。	図書
	ビブリオバトルの実施	教員によるビブリオバトル研修から含め、3回ロングホームルームの時間数を頂き、実施することができた。	A	読書活動への啓発および生徒のプレゼンテーション能力の向上に繋がっているものと確信できる。	
	図書館の貸出本冊数 12,000冊以上	年間貸出冊数は約9,000冊であり、1万冊に届いていない。しかし、他校との比較では各段に多い数値である。	B	次年度は目標を1万冊に修正する。	
	図書館利用のない生徒への働き掛けの工夫	一度でも本を借りたことのある生徒の割合は約35%であった。しかし本を借りなくても図書館利用をしている生徒はもう少し多い。	A	引き続き一度でも本を借りたことのある生徒の割合50%以上を目標とする。	
エ 心身の健康と命を守る教育の推進	生徒交通事故件数 10件以下	交通事故件数は18件。	C	令和8年4月から導入される新制度の周知等を行う。ヘルメット所持を自転車通学許可条件に入れた。	生徒
	重大な生徒交通事故件数 0件	重大な事故は0件だった。	A	令和8年4月から導入される新制度の周知等を行う。	
	自転車指導警告カードの交付を受けた生徒への指導	交付を受けた生徒は担任に提出し、生徒課交通指導担当が集約した。枚数に応じ個別指導を行った。	B	警察がカードの発出時期・地域を恣意的に決める(校外教育連盟でも改善を要望した)ので、警告カードを成果目標にして経年比較しない方がよいと思われる。	

様式第3号

交通安全街頭指導への保護者参加	定例の街頭指導に PTA 交通委員が参加した。	A	駐車場、道路使用許可等の課題があり以前のように1年各クラス保護者の自主参加が難しくなっている。	
「ほけんだより」の発行回数5回以上と発行方法の工夫	現時点で4回発行済み。年度内には5回発行を予定しており、計画通りである。	A	保健委員が全校生徒へ保健情報を発信することができた。	保健
思春期講座、熱中症対策等の保健教育（集団指導）の実施	薬学講座と熱中症予防講座を予定通り実施することができた。	A	薬物や熱中症に関する知識を生徒に伝えることができた。	
グループエンカウンター（1年生）の実施	各クラスに事前に指導案を提示し実施することによって、年度初めのクラス経営の円滑化に資することができた。	A	全学年でクラスごとで実施できたが、検査結果の有効活用のために ICT を活用した実施形態も今後検討していきたい。	相談 学年
セラ・プラスの実施と活用 全学年	5月中旬に全学年を対象に、長期欠席中の生徒以外はすべての生徒に実施できた。	A	検査結果を全教員と共有することにより、クラス担任だけでなく、部活動顧問も、より一層生徒理解を深めることができた。	
相談室連絡会の定期開催により、情報や課題の共有及び保護者・生徒への適切な支援の実施	「相談室連絡会議」の機能を活用し、学年間で情報交換をすることによって早期の情報把握と生徒への支援を実施できた。	A	個々の生徒の課題や問題点を把握し早期解決への一定の成果を上げることができた。	
丁寧な生徒観察と早めの声掛けを実施し、関係職員やSCとの情報共有等、困難を抱えた生徒に対する組織的な支援の実施	スクールカウンセラーと関係職員との連携により課題を有する生徒の早期の把握と適切な支援を図ることができた。	A	困難な状況を抱える生徒への支援活動を効果的にするためスクールカウンセリングを中心に組織的な活動ができた。	
特別支援学校のセンター的機能の活用	県主催の特別支援研修や地域研修会に参加した職員が近隣校と情報共有できた。近隣の特別支援学校からの職員訪問を受け学校の支援体制について適切な助言を受けた。	A	特別支援学校職員の助言により教員間で支援を必要とする生徒への理解に資することができた。	
防災倉庫内の食料、備品等の確認 年1回以上	複数の担当者で、櫛寮にある非常食や防災の備品と防災倉庫にある備品の確認を複数の防災担当で年末に行った。	A	担当一人ではなく複数の担当で確認をすることができたことは良かった。有事に備え、非常食や備品の所在について、職員に周知する方法を検討していきたい。	総務
防災訓練の計画的な実施 年2回以上	4月に火災防災訓練、9月にオンラインで地震防災訓練を計画的に行った。11月には1年生対象に自衛隊の方を講師にお願いし、講話を行った。	A	地区別集会を実施したり、自衛隊の防災講話を実施することで、生徒職員の防災意識を高めることができた。防災個票の更新は随時行っていきたい。	
一斉メール配信を活用した安	4月の防災訓練でCラーニン	A	未回答の生徒に対して幾度も	

様式第3号

	否認訓練の実施	グを活用し、一斉メール配信で安否確認訓練を行った。		呼びかけて回答の確認ができた。全員の回答が一度で確認できるように、この訓練の重要性を事前に呼び掛けていく必要がある。	
	「心の教育」への保護者参加55%以上	全校で保護者の参加率は53.7%であった。	B	目標の55%を達成することができなかったが、昨年度よりも参加率を上げることはできた。担任や保護者同士の繋がりができる貴重な機会であることを更に呼び掛けていきたい。	総務 学年
	学年保護者会への保護者参加80%以上	参加率は全学年達成した。学年ごと、学校の様子や進路への取組等を説明した。	A	学校の様子等を説明する大切な機会として継続する。	
	東陵室ボランティアへの保護者協力	全部で14回(7日間の午前と午後)のボランティアを募集し、延べ8名のご協力をいただいた。	B	今年度は年度初めに予定が立たず、募集の日時も従来と比べて非常に限定的になってしまったが、参加率は高かった。来年度は年度初めに予定を立て、募集を行っていきたい。	
オ 積極的な 広報活動	土曜公開来校者数 延べ1,600人以上	年間で約2,500人が来校した。	A	本校の魅力をアピールする機会として継続する。	管理職
	土曜公開来校者満足度 90%以上	事後アンケートで92.6%が満足と回答した。	B	来校者数に対して回答数が少ないため、回答を促す工夫が必要である。	
	土曜公開に向けての校内美化点検の実施	前日放課後清掃を丁寧に行い、点検を行った。また美化委員に呼びかけて、公開授業当日朝に清掃を行った。	A	おおむね目的は達成できている。清掃用具の配置を考え、効率的に朝清掃ができるよう工夫していきたい。	保健
	学校ホームページやソーシャルメディアでのタイムリーな情報発信と週2回以上の更新	ソーシャルメディアサービスを活用し、タイムリーな情報発信ができた。	A	今後も継続的に情報発信する。	情報
	学校ホームページやソーシャルメディアでの各部活動の活動報告 学期1回以上	複数の部活動がソーシャルメディアサービスを利用しての活動報告を実施している。	B	今後も積極的な情報配信を各部活に依頼していく。	
カ 業務改善 と働きやすい職場 づくり	事務室窓口へのクレーム件数 0件	窓口へのクレームは無かったが電話での問合せは数件あり、丁寧に要望を聞き取り、対応した。	A	引き続き丁寧な対応を行っていく。	事務室
	施設設備等の不具合による事故 0件	不具合による事故は無かったが施設等が老朽化しており不良箇所を順次修繕対応した。	A	事故が無いように、迅速な対応をしていく。	
	保健室や職員室の共用スペース等の片付け	仮設校舎移転後から1年間業務を行う中で、保健室等をより使いやすい形に整理することができた。	A	今後活用できそうなものを検討し、必要なものを購入していく。	保健 管理職
	校舎建築・移転に向けて、計画的に不要品の処分と整理	仮設校舎移転後から現在までに不用品の大半を整理。処分	A	まだ処分しきれっていないものを処分し、新しく必要が生じ	

様式第3号

		することができた。		たものを検討し、購入していきたい。	
	「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	アンケートで「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒の割合は82.4%であった。	A	安心して学校生活を送れる環境づくりを大切にしていく。	管理職 運営委員 全職員
	コンプライアンス通信を利用した研修の実施	毎月の職員会議でコンプライアンスについて取り扱う時間を設けた。	B	他人事としないで、日頃から意識することが大切である。	
	Google アカウント等を利用した情報共有と意見交換の実施	学校行事や緊急時に職員間で Google Chat を用いた情報共有を始めた。	B	Chat 機能は利便性が高く、継続して利用していきたい。一方、ICTに依存しすぎて対話をする機会が減らないよう注意したい。	
	校務分掌や部活動における校務整理	総務事務の集中化を見据えた分掌のあり方について検討を始めた。	B	次年度以降も継続して検討する。	管理職 情報
	各種調査、教材研究等における ICT の積極的活用と校務の効率化	ほとんどの調査はクラウドを活用して実施できた。書類やプリントをデータで配信するなど校務の効率化ができていく。	A	アンケート等をクラウドを活用して実施することで、ペーパーレス化を進めていく。	
キ 仮設校舎の運用と新校舎建築に関わる業務の遂行	仮設校舎の運用及び新校舎（施設設備配置、諸室配置等）についての情報共有及びそれに対する意見や要望の集約	解体工事や発掘調査スケジュールの説明を行い、意見や要望の集約を行った。	A	新校舎の建築工事が始まり、引き続き漏れないように進めていく。	管理職 事務室 ※5
	県教育委員会や施設管理担当部署への意見や要望の伝達と情報交換	校舎建替に関する様々な問題について、必要に応じてワーキンググループで検討・調整を行い、校舎建替検討委員会での承認を得て、職員会議に諮った。	A	これから多くの課題を解決して、対応していかなければならない。先行事例の情報を生かし、よりよい校舎建築を実現したい。	
	教育の質を維持するための施設等の使用計画の検討及び作成	校舎建替工事に伴い使用制限のかかる施設（主にグラウンド）について校外の施設の利用の可否について検討している。	B	従来通りの活動を担保するのは困難である。利用できる環境の中で成果をあげる方法も検討が必要である。	
	仮設校舎の清掃の徹底と快適な学びの空間の創出	仮設校舎の清掃に必要な用具等検討し、購入を進めることができた。	A	熱中症予防対策など、快適な学習空間のために、教室に設置したほうが良い物などあれば購入・取り付けをお願いしたい。	保健
ク 時代の要請に応える教育の推進	外部専門機関や地域との連携による探究的学習の充実と持続可能な形での実施方法の検討	しずおか共育ネットとの連携で、生徒が地域に出て、多くの事業所や団体でフィールドワークを行った。	A	本年度から新しい形でのフィールドワークとなったが、連携先がやりやすい形を整えてくれたおかげで、例年よりもスムーズに実施ができた。	探究 教科
	静岡県立大学との連携による探究的学習への参加者数（SDGs 相談会等）	静岡県立大学との連携事業「SDGs Terakoya」、「SDGs 相談会」に生徒各20名、延べにし	A	「SDGs 相談会」はここ数年続いている事業だが、本年度も環境生命科学科の教員3名が	

様式第3号

	延べ30人以上	て合計40名が参加。		熱心に指導してくださり、生徒の満足度も高かった。	
--	---------	------------	--	--------------------------	--

- ※1 北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京科学、一橋、神戸、医学部医学科
- ※2 早稲田、慶応、上智、ICU、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館
- ※3 理系高大連携推進委員会
- ※4 いじめ防止対策委員会
- ※5 校舎建替ワーキンググループ、校舎建替検討委員会